報 道 発 表 資 料
平成 20 年 3 月 14 日
気　　象　　庁

3 月 23 日は世界気象デー
－今年のテーマは、「より良い未来のために、私達の地球を観測する」－

世界気象デーとは

世界気象機関（WMO）は、1950 年（昭和 25 年）3 月 23 日に世界気象機関条約が発効したことを記念してこの日を世界気象デーとし、毎年キャンペーンテーマを設けて気象知識の普及や国際的な気象業務への理解の促進に努めています。今年のキャンペーンテーマは、「より良い未来のために、私達の地球を観測する」です。

世界気象機関と観測

世界気象機関が発足して今年で 58 年が経過した今日、世界気象機関に加盟する各国の気象機関は、気象の監視・予測を的確に行うために、気象衛星を含む世界的なネットワークを築き上げ、世界気象機関の枠組で定めた基準やルールに則って地上・高層気象観測等を実施し、国際的な通信網を通じてこれらの気象観測データを迅速に交換しています。各国気象機関は災害の予防や交通の安全の確保などに貢献すべく、これらの観測データを元に台風や低気圧に伴う大雨・強風などを監視・予測し、警報・注意報や天気予報を発表しています。

また、近年、人類の活動が地球環境に影響を及ぼすことがわかってきましたが、世界気象機関は 1979 年には第 1 回世界気候会議を開催して人為的な気候変化の予見とその防止策の早急な実施を求め、その後、国連環境計画と共同で「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」を設置するなど、気候変動の監視・予測においても重要な役割を果たしてきています。

異常気象による災害の防止・軽減や地球温暖化に関する一層確かな科学的知見が求められる中で、世界各地の気象・気候等の状況を正しく把握し、予測することの重要性が今、高まっています。世界気象機関は効果的な気象等の観測の重要性に関する理解を改めて深めていただくため、今年のテーマを設けたものです。

気象庁は、静止気象衛星ひまわりや地上・高層気象観測網などによって気象を監視し、また、大気中の二酸化炭素濃度等を南鳥島などで観測する一方、WMO 温室効果ガス世界資料センターの役割を果たすなど、世界気象機関の枠組で行われる気象等の観測・監視に大きく貢献しています。

世界気象機関（WMO）の概要

設立目的	気象業務に関する国際的な調整･標準化･改善や、気象情報の交換促進
設立	1950 年 3 月 23 日
事務局所在地	スイス･ジュネーブ
加盟構成員	182 か国･6 領域（我が国は 1953 年（昭和 28 年）に加盟）
ホームページ	http://www.wmo.int/

問い合わせ先：　総務部企画課国際室
電話：　03-3212-8341　（内線 2267）